

血管内治療の合併症について

血管造影手技・カテーテル操作に伴うもの

血管穿刺やカテーテル操作は慎重に行いますが、血管やその周囲の状態によっては、治療中や治療後に合併症が生じる可能性があります。

- ・ 穿刺部からの出血や血腫、穿刺部の神経損傷
- ・ 動脈損傷・出血・血栓症・脳梗塞など
- ・ 造影剤アレルギー・造影剤腎症

動脈の塞栓に伴うもの

塞栓を行う場所や血管の状態、周囲臓器の状態によって、様々な合併症を引き起こす可能性があります。

塞栓を行う前には十分な評価を行っています。治療中に塞栓に伴うリスクが高いと判断した場合には、塞栓を行わないこともあります。

- ・ 塞栓痛：動脈の塞栓により、塞栓部やその周囲に痛みが生じる場合があります。
- ・ 肝梗塞・胆汁漏：肝臓の塞栓を行う場合に、まれに正常肝の梗塞や胆管障害が生じる場合があります。重篤な感染を伴う場合には外科的な処置が必要になることがあります。
- ・ 皮膚損傷などの虚血性変化：非常にまれな合併症です。
- ・ 異所性塞栓：塞栓時には十分に注意し塞栓物質を注入しますが、まれに目的外の血管に塞栓物質が流れる場合や標的外組織の塞栓が避けられない場合があります。その場合には塞栓された臓器に障害が生じる可能性があります。特に気管支動脈-肺静脈シャントがある場合には、塞栓により脳梗塞などのリスクがあるため注意が必要です。
- ・ 神経障害：特に、頭頸部などの脊椎周囲の血管を治療する場合に、ごくまれに脳梗塞や脊髄梗塞など神経障害が生じる可能性があります。

治療の反応に伴うものなど

- ・ 発熱：治療後に発熱がある可能性があります。
- ・ 腫瘍崩壊症候群：大きな腫瘍が急速に壊死した場合などに、腎臓などの重要臓器に負担がかかります。結果として重篤な電解質異常や他臓器障害を引き起こす可能性があります。
- ・ その他、予期しない重篤な合併症が生じる可能性があります。